

あとがき

「医者の資質は最初の3年で決まる」。これは医学部を卒業したときに、当時、順天堂大学理事長の懸田克躬先生から、そして研修医を始めてすぐに聖路加国際病院理事長の日野原重明先生からいただいた金言です。初期研修はそれだけ重要であり、私も今年で卒後20年目を迎えるが、全くその通りだったと心から感じております。

順天堂大学医学部附属練馬病院は設立されてようやく7年目を迎えようかという新しい病院です。研修医の採用を始める前年に当時の宮野武院長（現名誉院長）から「国際社会に通じる医師の育成を」、そしてやはり当時の臨床研修センター長の児島邦明現院長からは「優れた研修病院プログラム作成を」と依頼をいただきました。そこで、私の研修医時代の恩師であります、青木眞先生（サクラ精機株式会社学術顧問）にご相談申し上げたところ、「それなら最適な先生がいるよ。こんないい先生、ほかにはいないよ」とご紹介いただいた方がジョエル・ブランチ先生でした。

ブランチ先生は優雅なたたずまいの中にユーモアと謙虚さを兼ね備えた、iPhoneとiPadをこよなく愛す英国紳士です。私よりお若い先生ですが、膨大な勉強量に裏づけられた確かな知識を幅広くおもちで、鋭い視点から症例をさまざまな角度で検討してくださいます。そして、どんな症例でも大変興味深いものとして昇華し、（当たり前なんでしょうが）とてもきれいなBritish Englishで解説してくださいます。研修医のためと思って企画いたしましたが、最もためになっているのは私ではないかとすぐに気づき、これはまずい、まずいと思ってあわてて始めたのが、このブランチ先生のLIVE記録でした。先生の仰っている内容をできるだけ正確に和訳し、解説を少しばかり追記し、カレンファレンスの翌週に研修医に配布するようにしていきました。

今回その積み重ねが、羊土社北本陽介氏の多大なるご支援を賜り、本書として刊行するに至ったことを大変うれしく思います。本書が研修医の責重な2年間の役立てになることを願ってやみません。

2012年3月

順天堂大学医学部附属練馬病院

井上健司